

表2：標準的なセッションの流れ

内容 (所要時間)
前回までの振り返り (20分)
宿題の振り返り (10分)
ロールプレイ、質疑応答 (25分)
本日のテーマについての講義、質疑応答 (30分)
本日のホームワークについての説明 (5分)

## ■ 結果

### <初回のアンケートより>

#### \* 困り感

「楽にコミュニケーションが取れるようになりたい」

#### \* 対応を変えたいという気持ち

「私自身の叱り方を見直したい」

「日々、注意したり怒ったりばかりなので、それを変えたい」

### <最終回のアンケートより>

#### \* 保護者の意識や関わり方の変化

「今までより、よく行動を褒めるようになった」

#### \* 保護者の気持ちの変化

「自分のあり方、心の持ち方を変えることができ、子育てへの意欲が出てきた」

#### \* 子どもの行動の変化を実感

「困っていた行動を減らすことができた」

「対応が変われば、子どもも反応し変わっていく姿が印象的だった」

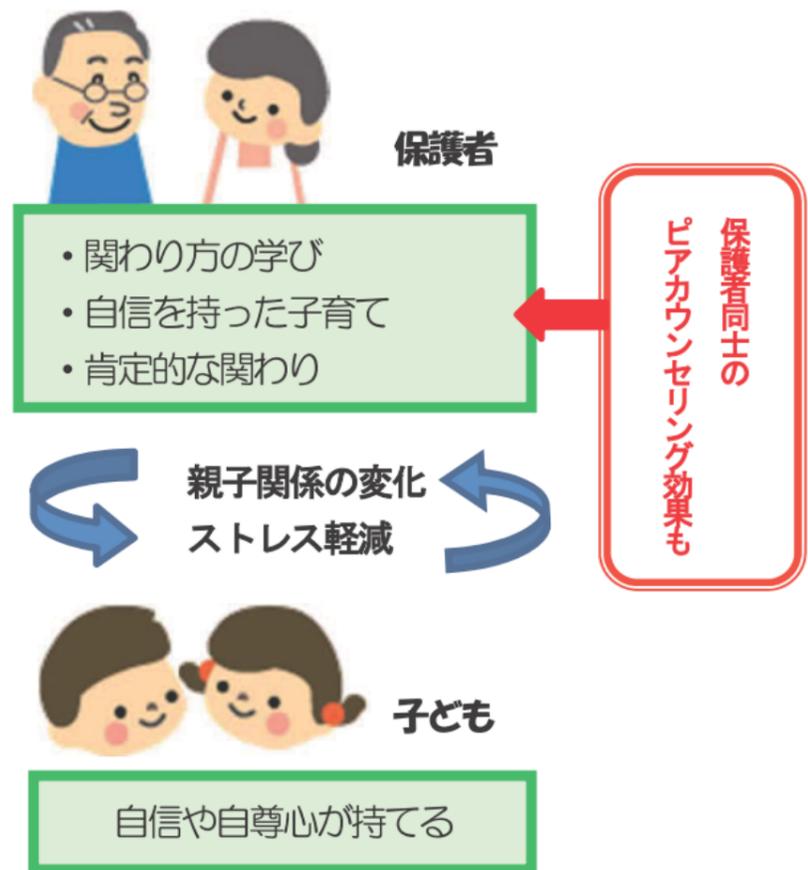
#### \* 保護者と子どもの関係性の変化

「親子関係がよくなった」

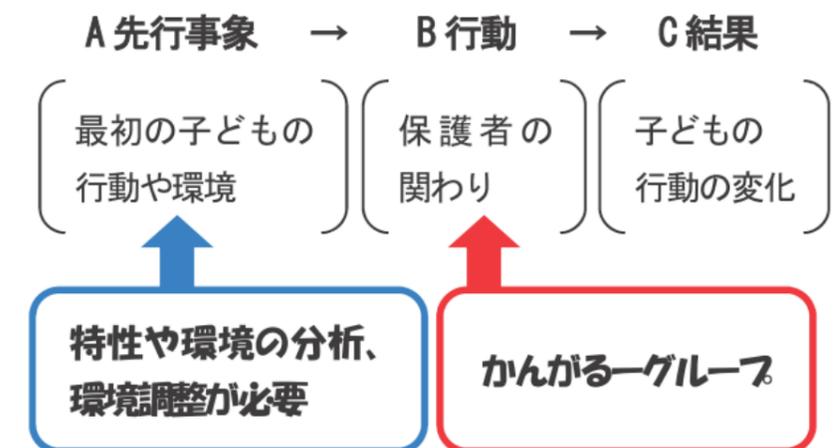
## ■ 考察

保護者は自信を持って肯定的に子どもへ対応することができ、子どもにとっては大切な自信や自尊心が育まれる機会となり、相互作用により親子にとってのストレスが軽減し、過ごしやすい状況が生まれています。

保護者からは「自分のやり方がこれでいいんだと、他の人の話を聞いて思えた」等の感想も聞かれ、周囲からなかなか理解されない悩みを共有できる保護者同士のピアカウンセリング効果も期待できます。



一方、発達障害の特性が顕在化し、当グループの内容だけでは対応が難しいケースもあります。グループ活動は、基本的に子どもの行動や環境より、保護者の関わりをどうするかという点に軸がおかれ、そこからの子どもの行動の変容を狙っています。発達障害の特性が強い児に関しては、特性や行動が生まれる環境や子どもに求める課題の分析を細やかにいき、環境調整も含めた保護者の対応が求められます。このようなニーズに対しては別の形態での支援が適していると思われます。



今後は保護者だけではなく、幼稚園や保育園等の支援者に向けて実施していくことも考えていきたいと思えます。

また、より多様な支援体制を検討していくことで、幅広い状態像の発達障害児を支援していきたいと思えます。

【参考図書】  
上林靖子監修 「発達障害のペアレントトレーニング実践マニュアル」(中央法規)

